

高度治療部(HCU)

High Care Unit

高度治療部長
上本 伸二



重症患者の安全かつ適切な治療と 一般病棟へのスムーズな移行を図る

24時間集中監視体制をとり、主として肝胆膵・移植外科ならびに心臓血管外科患者の高度治療部門として機能している。集中治療部と一般病棟との中間的施設として、橋渡しの役割を担っている。

代表的診療対象疾患

肝移植を中心とした肝胆膵・移植外科重症疾患、心臓血管外科重症疾患術後患者を中心に治療にあたっている。人工呼吸管理はもとより、人工透析、血漿交換なども行い、ICUからのステップダウン病床として長期管理も含めた治療を行っている。

業務内容の特徴と実績

沿革と診療体制

高度治療部は、肝胆膵・移植外科ならびに心臓血管外科の重症患者の高度治療を担うことを目的として、2010年10月南病棟4階に6床の独立した部門として新設された。これまで京大病院は移植医療を含めた高度な外科的治療を数多く行ってきたにもかかわらず、集中治療部の病床数が10床と極めて少なく、全身状態がまだ不安定な状態でも一般病棟に転床して管理せざるを得ない状況が長く続いていた。そこで、これらの患者さんを対象に、呼吸、循環、代謝等、臓器不全を合併した患者さんに対しても高度な治療および看護を行うことが可能な高度治療部(HCU)が開設された。

高度治療部としての専従スタッフ医師は現時点では配属されていないが、肝胆膵・移植外科ならびに心臓血管外科のスタッフが常時HCUで管理と治療を行っている。また、看護スタッフは、南病棟4階(肝胆膵・移植外科ならびに心臓血管外科病棟)のスタッフがローテーションを行い

ながら、看護副部長を含む看護師15名が配置されており、24時間同じレベルの看護を維持するように配慮されている。医療安全の見地から、現在4床で運用している。



高度先進医療の取り組み

脳死、生体肝移植患者の管理・治療に貢献

京大病院の高度先進医療のうち、高度治療部が関与するものとしては、脳死および生体肝移植が挙げられる。これまでの生体肝移植での大きな業績に加えて、2010年7月の改正臓器移植法施行以来、当院においても脳死移植症例数は増加しており、高度治療部が果たす役割は今後ますます大きくなると思われる。また、心臓移植についても実施に向けて病院全体で鋭意準備が進んでいる。これに関連して、心臓移植への橋渡しの医療として体外式または植え込み型補助人工心臓を装着する症

例がさらに増加すると考えられる。以上のような重症患者を効率的かつ安全に管理・治療し、早期の社会復帰を実現するべく、関連各科の協力を得ながらスタッフ全員が一丸となって取り組んでいる。